

1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。

小テスト、自習室、S L C、それぞれ効果が出てきて、検定試験に代表されるように生徒の学習に対する自発性が出てきており、自学自習できる生徒の増加は嬉しい。「自ら考え判断できる生徒」の育成にもつながるので、より多くの生徒の参加を期待したい。この方向を維持してさらなる推進を図ると共に、説明会などで現状を広く外部に伝えることに注力することも必要。このような問題は他校も力を入れていることなので、獨協埼玉でも実施して効果が上がってきていることは当然のこととして捉えなければならない。

他校の例では「追試」といわないケースがあり、小テストで得点が低くてもネガティブな印象にしないことで前向きに取り組める工夫をしている。必要があれば、参考にしてほしい。

2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。

昨年同様の記述になるが一向に大きな改善が見られない。躰と一緒に繰り返す言い続けるとともに、指導する内容を都度変更して、生徒の側にも「同じことを言っている」と聞き流されないような工夫が必要。小学校の道徳時間のように根本的に相手のことを考える視点も強調してはどうだろうか。

携帯電話、スマートフォンは大人もよく見ているし、トラブルの種があるのも似たような状況だと思われる。マナーも大事だが、なるべく見ないようにすることも考えたほうが良いのではないか。また、保護者も含めての携帯電話教室があっても良い。

3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。

こちらも昨年同様。他人を思うという根本的な問題は2と変わらない。私も例年似たような回答から抜け出せないでいるのが実情。その中で挨拶することだけは前進している。これは教職員という大人の実践を目の当たりにできることが大きいのでは。今後2と3は共通の括りで絶えず検討する問題で、ひょっとしたら重点目標以前の話かもしれない。

指導する側・される側が決まってしまうと、お互いに徒労感が募るので登下校指導を生徒たちに当番制で試みさせてはどうか。立場が変わることによって何か感じることもあるかもしれない。注意されるから気を付けるのではなく、自主的に考えるきっかけを作れるのが理想。また、地域住民との交流を深めることで、外部の味方を増やすのも苦情を減らすには有効かもしれない。